

子宮内膜着床能 (endometrial receptivity analysis ; ERA)

京野 廣一／竹重 勇哉／吉永 光希／橋本 朋子

Summary

子宮内膜着床能(ERA)とは、胚の最適な着床の窓(WOI)を調べる検査で、反復着床不全(RIF)が適応となる。RIF患者の検査結果は約30%がnon-receptiveといわれ、移植のタイミングを補正することで着床率の向上が期待できる。また最近では、年齢や不妊期間、炎症、出産の有無がERA検査の結果に関与することも報告されている。これらの点から、移植胚をGrade 5に統一し、ERA検査時および移植時に投与するプロゲステロン(P4)製剤を統一することにより、ERAの精度が向上し、さらに有効性も向上することが期待される。

Key words

子宮内膜着床能(ERA)
着床の窓(WOI)
反復着床不全(RIF)
ホルモン補充周期(HRC)
凍結融解胚移植(FET)

Koichi Kyono

京野アートクリニック高輪理事長

Yuya Takeshige

京野アートクリニック高輪

Koki Yoshinaga

京野アートクリニック高輪

Tomoko Hashimoto

京野アートクリニック高輪副院長

はじめに

日本産科婦人科学会より報告されている2019年のART(assisted reproductive technology ; 生殖補助医療)データによると、89.4%(54,188/60,598)が凍結融解胚移植(frozen-thawed embryo transfer ; FET)により出産している¹⁾。体外受精が不成功となる因子として、受精卵側と子宮側に大別される。諸外国からの報告や、現在わが国でも実施されている着床前胚染色体異数性検査(preimplantation genetic testing for aneuploidy ; PGT-A)の特別臨床研究の中間報告などにおいても、PGT-Aを実施することで胚移植あたりの妊娠率の上昇および流産率の低下が報告されている²⁾。一方で、胚側の要因のみでは妊娠率の向上には限界があり、子宮要因の関与も考えられるが、その候補は多岐にわたる。子宮側の要因として挙げられる項目の1つとして子宮内膜受容期の補正があり、その最適な移植時期を調べる検査がERA検査である。

ERA 検査とは

子宮内膜着床能(endometrial receptivity analysis ; ERA)検査は、個人の胚の最適な「着床の窓」(window of implantation ; WOI)を調べる検査である。子宮内膜を採取し、次世代シーケンサーを用いてmRNAの遺伝子発現パターンを解析することで各個人の受容期を判定することが可能となる。ERA検査の結果において、約70%の